

第2回 北陸新幹線加賀温泉駅駅舎デザインコンセプト検討委員会

日時 平成27年10月1日(木) 10:00～

場所 加賀市役所別館 304会議室

1. 開会

(司会) 北陸新幹線加賀温泉駅駅舎デザインコンセプト検討委員会を開催させていただきます。まずご紹介なのですが、本日、第2回の委員会から、JR西日本金沢支社の方からオブザーバーをお迎えしております。ご紹介させていただきます。JR西日本金沢支社の企画課新幹線調査の担当課長でいらっしゃいます四十九英明さんでございます。

(四十九オブザーバー) 金沢支社の四十九と申します。今、新幹線調査ということですが、一応並行在来線も担当させていただいていますので、この二つをやらせていただいています。今日は第2回目で初めて出席なのですが、またよろしく願いいたします。

(司会) それでは、本日の議事に入りたいと思います。

それでは、先生に進行の方をお任せいたします。よろしく願いいたします。

(水野委員長) おはようございます。今日は第2回目でございます。第1回目のときは、ざっくりばらんに皆さんからご意見を頂いて、広げて議論してまいりました。第2回目は少し広げたものを縮めながら集中してまいりたいと思います。よろしく願いします。

それでは、早速ですが、議事次第に従いまして、2の議事、(1)～(3)まで続いて説明をお願いします。その後、一つずつまた質問、ご意見等を伺いたいと思います。

では、よろしく願いします。

2. 議事

(1) 第1回検討委員会における意見整理と今後の対応

(2) 本委員会における検討内容

(3) 加賀市のまちづくり計画を踏まえた駅周辺地区整備の基本コンセプト(案)

(事務局) 事務局をしております中野と申します。私の方から資料を基に説明をします。資料は、A3の検討委員会の「検討資料」と書いたこちらの資料、それから、パワーポイントで同じようなものを映し出していきます。どちらでも結構ですので、主に私はペーパーの方を中心に説明をさせていただこうかと思います。

こちらの検討資料の中身ですが、最初に、前回の検討委員会で出た意見の整理と今後の対応、それから、本委員会の検討内容、そして、今回の議論の本題になります、加賀市のまちづくりの課題を踏まえた駅周辺地区整備の基本コンセプトの案ということで、こちらの方を後ほど説明いたします。

その前に、前回出た意見をまとめたデータ及び検討結果について、説明させていただこうかと思います。それでは、資料の方を説明します。

(以下スライド併用)

#1

まず、1ページをご覧になっていただきたいと思います。

第1回委員会で出た主な意見につきましては、こちらのスクリーンの方にまとめてありますが、「加賀市のまちづくりについて」ということで、中長期の展望を持った方向性の議論が必要ではないかという、もっと視野を広げて加賀市全体を見た議論が必要ということで意見が出ておりました。これにつきまして、後ほどこの資料の3ページ、4ページの方で説明させていただきます。

次の「②駅舎デザインについて」。駅舎、それから、ホームに関して、駅舎の現在の位置が確定なのかどうか、それから、在来線とは並行ではなくて斜めに並んだような形になっている。それはどうしてかといったご質問がございました。こちらにつきましては、鉄道運輸機構さんの方で、一度持ち帰ってから、工事担当の者に確認してお答えするというところで、こちらの方でお答えをなさっております、並行でない理由ですが、「駅及び前後の工作物等を考慮し、効果的・経済的な線形で決定してきております」。ちょっと具体的な説明ではないですが、効果的・経済的ということで線形が決定されるという流れになっていきますが、効果的・経済的な検討の結果ということになっています。

また、駅舎の位置、現在の計画の位置、前回、図面等で示した位置が決定なのかどうか、福井側にずらすことができないのかどうかといったご質問もございました。これにつきましては、「既存駅前広場との連続性及び在来線との乗り換えを考慮して計画されたものであり、この計画を変更することはできない」ということで、駅舎の位置はこの前示した図面どおりということになります。

続いて、「駅舎デザインについて」、チョボの2ですが、白山眺望、それから、駅周辺の建物等の色彩統一等について、こちらの方は、紙の資料でいいますと、8ページをご覧になっていただきたいと思います。

#8

こちらの下の写真、これはギャラリーの上から写真を撮ったものです。このギャラリーの屋上は、大体新幹線のホームとほぼ同じような高さ、若干ホームの方が高いのですが、似たような高さということで、参考にパノラマ写真を載せております。これを見ますと、左側に白山ということであるのですが、隣の商業施設の建物の陰になっていて、この位置からでは白山を眺望することができない。ただし、駅前の山並については、病院がありますが、稜線を確認することができるということで、確保されているという状況です。

また、色彩の誘導と景観についてご意見がございました。こちらについても、駅舎の周辺の景観には、今後、行政側としても訴え掛けていきたいと思っております。

#1

続いて、何のために、誰のために、どんな風景で整備するのか、それから、乗降客の現状把握、また、どう優先するのか、二次交通を優先とするのかといった、駅の乗降客、利用者の特性がどのようになっているかというご質問があったかと思っております。それにつま

しては、また資料の方は戻るのですが、5 ページ、6 ページをご覧になっていただきたい。

#5

まず5 ページは「加賀温泉駅の利用者特性」ということで、紙の資料の方では、「加賀市の将来人口」ということで、これは人口問題研究所が公表しているものですが、10 年後には約 10%減という推計値が出されております。

また、(2) としまして、加賀温泉郷への観光入込客数の推移。これにつきましては、片山津、山中温泉は近年は若干増加傾向ということですが、山代温泉はここ数年減少となっておりますが、ただし、平成 27 年に入ってから、新幹線効果といいますか、27 年の 1~7 月までの前年度比較では 10%増となっております。ただし、新幹線開業後には約 15%増ということで増加傾向を示しております。

(3) の利用者特性です。これにつきましては、前回の資料で出させていただいたものと同じものになるのですが、定期券利用者につきましてはほぼ横ばい。それ以外の利用者につきましては微減傾向であるという結果になっております。

続いて、(4) の加賀温泉駅の端末交通の特性ということですが、加賀温泉駅に降り立った人の約 8 割が温泉地へ向かう利用者であるということ。これは石川県で平成 22 年に調査等の報告書として出されたものです。また、二次交通、駅からどのようにしてそれぞれの目的地まで行っているかということにつきましては、71%が旅館の送迎バス、タクシーは 13%、それ以外は、路線バス等が 12%といった数字になっております。

#6

次に 6 ページ、温泉駅の将来の乗降客数の推移を推計しております。推計の仕方につきましては、平成 16~25 年度までの 10 年間の乗降客数の推移、そこから今後のトレンド推計ということで傾向を読み取りまして、平成 35 年度の乗降客数を推計し、それに新幹線が整備されたことによって増加が見込まれる乗降客数を足しております。それが 10 年後の乗降客数、35 年度の推定乗降客数ということで出しておりますが、まず現在の乗降客数の数字でいきますと、平成 35 年度には 1388 人に減るということですが、これは乗る客、降りる客ということで、単純に 2 倍しまして、乗降客数としては 2776 人。また、新幹線が整備されたことによって増える乗降客数ですが、右の表には、新幹線の各駅の乗降客数が新幹線ができたことによってどれだけ増えたかを表にしてまとめてあります。この平均を出したものが上の赤字で示してあります増加率ということで、平均では約 1.27 倍になっております。

そういうことで、(4) になりますが、将来の乗降客数としましては、先ほどのトレンド乗降客数 2776 人を 1.27 倍しまして、1 日当たり約 3600 人の将来の乗降客数が見込まれるという値を出しております。

ここまでが駅利用者、乗降客数の特性ということで、データ整理をしました。

#9

その次の 9 ページに進んでいただきたいと思うのですが、前回の検討委員会で、今の駅周辺の駐車場は、新幹線が開業後に足りるのかどうかといったご意見がございました。そ

ここで、調査した結果なのですが、駅周辺だけでいいますと、市営の駐車場及び民間の駐車場を合わせて342台が現在あります。ただし、新幹線ができることによりまして、ちょうど隣の商業施設シティさんと駅との間に挟まれる所、左側の図でいいますと、右側の大きく斜線で囲んだ所、民間駐車場140台とあります。こちらの方と隣、ピンク色で塗られた所にかぶさる形になっておりますが、その駐車場が新幹線ができることによって廃止となります。合計で約210台が廃止されるということで、駐車場の確保が課題となってきます。

そこで、どれだけの駐車場が新幹線整備後に必要かということで、参考としまして、こちらの方で推計した値があります。まず公共分としては、現在の52台はあるのですが、それプラスどれだけの駐車収容台数が必要かということで出したものが右の方になりまして、下の方で表になっているものがあります。これは何かといえますと、新幹線の各駅の乗降客数と駐車場の収容台数、これは公共分だけですが、それを乗降客数で割りまして、一人当たり何台分の駐車場の収容台数があるかといったものを表にして示してあります。その平均が一番右になりますが、一人当たり0.13台ということになりまして、先ほどの将来の乗降客数の見込みということで、1日当たり3600人と出してありますが、それを掛けますと約470台が必要ではないか。これは幅がありますが、今の52台から470台ぐらいまでが必要とされるのではないかというような検討結果が出ております。

#10

10ページ以降、参考資料等を載せておりまして、こちらの方は次回以降の検討項目に含まれてくるのですが、情報提供といえますか、次回の議論の参考ということで載せております。

将来の新幹線の駅のレイアウト、これはまだ確定ではないのですが、レイアウトということでイメージ図で示されております。緑部分が新幹線のラッチ内ということで、改札を過ぎてからのラッチ内ということになっております。そして、その左側がラッチ外、コンコースになっています。そして、その隣が在来線の駅舎、そこから少し空けて、ちょうどその隣の高架下全体の活用と書いてありますが、南北連携軸、これは実は現在の在来線の横のアンダーパス、これが南北連携軸として矢印で示してあります。その隣が高架下の空間の活用といったことで、こちらの方で今後、例えば観光案内所、物産販売所、または休憩所、いろいろと利便施設が考えられるかと思いますが、そういったものが各駅で整備されているというものを参考に示した資料になります。

#11

次の11ページにつきましては、これまでに出てきた課題の解決の方向性ということでまとめたものでありまして、この後の資料の説明でも説明いたします。

大体ここまでが前回出た意見、それから、それをまとめた資料の説明に当たります。

#2

続いて、資料2ページに戻っていただけますでしょうか。先ほど検討委員会の検討内容としましては、駅舎及び駅前だけでなく、もっと広い視野に立って考えるべきではないか

といったことがありました。そこで、ここで左側の委員会の目的と目標年次及び検討範囲」と書いてあります。丸いチョボの上二つは、前回説明しましたので割愛しまして、3番目の方ですが、検討対象としては、下図に示すとおり、加賀市全域としまして、検証対象施設としては、黄色の枠内の駅舎、駅前広場、南北連絡通路とするということにしております。ということで、検討対象ということでは、加賀市全域としています。新幹線開業後の加賀温泉駅の在り方を考える上では、どうしても検討対象を加賀市全域と考えて、加賀温泉駅がどのような役割を果たして、また、そこからどう発展させていくかを考える必要があるということから、検討対象を加賀市全域としております。

右側ですが、今後のスケジュールとして示しています。これについては前回と同様の内容になっています。今回におきましては、まちづくりの課題を踏まえた基本コンセプト案の方を重点的に議論していただくことになろうかと思えます。

#3

次の3ページに進ませさせていただきます。「加賀市のまちづくり計画を踏まえた駅周辺地区の基本コンセプト(案)」となっております。

まず、新幹線開業後のまちづくりの課題としまして、敦賀開業後には首都圏からのアクセス利便性が向上、また、大阪開業後には近畿圏が約1時間圏内となるなど、その効果によって、観光、ビジネス、交流の活性化などが予想されます。そういったことから広域軸を意識したまちづくりが考えられるかと思えます。

また、加賀市におきましては、残念ながら、日本創成会議が公表した試算では、消滅可能性都市の一つになっておりまして、将来の人口減少が懸念されております。こうした将来予測の中、新幹線開業を契機としまして、交流人口の拡大、また、定住促進などということで、加賀市全域の活性化につなげる必要があると考えております。これにつきましては、加賀市人口減少アクションプランにその旨をうたっております。

また、加賀市総合計画におきましては、自然、文化、人ということで、まちづくりの基本理念が示されております。自然ということで、「流域の中でともに生き、豊かな自然を守るまち」。また、文化では、「地域固有の文化を磨き、継承・創造するまち」。人ということでは、「地域の未来をともに考え、支えあって生きるまち」というような理念があります。

また、都市計画マスタープランでは、こちらのページの右上にあります。「加賀温泉郷の玄関口となる加賀温泉駅周辺は、新幹線駅の整備が予定される重要な交通結節点として整備拡充を進め、公共交通の結節機能を強化する」ということを計画しております。また、次に景観に関わる部分で、「本市の顔として、都市景観の形成の他、多様な都市機能が集積する都市のシンボルとなる空間形成に努める」。また、丸3としまして、「広域交流を促進する交通拠点として位置付け、市民・来訪者に分かりやすく便利な総合ターミナルづくりを進める」といったことを都市計画マスタープランの方で掲げております。

そういったことで加賀温泉駅がどんな役割を果たすべきかということで3つにまとめております。まず、市全域とのアクセス性向上(域内連携)ということで、路線バスの新規路線が今年度から2本増えておりますが、そういったことで、公共交通の結節機能を強化し、市内(駅勢圏)の公共交通ネットワークの中心的な結節点としての役割を果たす。まず1番目の役割がアクセス性の向上ということです。

続いて、加賀市の観光の玄関口、アクセス拠点としての役割としまして、加賀市には大聖寺、橋立、東谷の歴史的なまちなみがございます。また、3温泉がありまして、それらの地域拠点を緑のネットワークでつなぐガーデンシティのゲートエリア、加賀温泉駅がそのガーデンシティのゲートエリアの中心としての役割を果たすということで、そういった観光の玄関口としての役割をここで示しております。

続いて、一番右ですが、加賀市の歴史・文化の情報発信の起点ということで、加賀市内には、まだ全国的には知られていないような観光資源としまして、歴史・文化の施設が多数あります。そういったものを今後もっと情報発信すべきではないか。その役割として加賀温泉駅の情報発信の起点としての役割を果たすべきではないかということで、ここでは示しております。

といったことで、加賀温泉駅周辺地区の基本コンセプトという、こっちで勝手にまとめさせていただいたのは、この資料の3ページ一番下にありますが、「(仮) 加賀市の『自然・文化・人』資源を活かした広域交流のゲートウェイ」ということでコンセプトとしております。「新幹線開業を契機とし、北陸新幹線沿線や飛騨地方との広域連携の他、加賀・金沢・能登の地域連携を促進し、加賀市の自然・文化などの観光資源を活かした域内の活性化とともに、来訪者・市民・地域住民・通勤通学・ビジネス客といった多様な人の交流を促進する新たな玄関口として位置付ける」というコンセプトです。

また、ターゲットということで、来訪者（観光客）、それから、市民・地域住民、また、通勤・通学客、そして、ビジネス客ということで、四つのターゲットを設定しております、それぞれのターゲットに対してのいろいろな機能が必要と思われませんが、それをまとめたものが次の4ページになります。

#4

「加賀温泉駅周辺の導入機能イメージ(案)」ということで、三つのパターン、イメージ1～3までで案をここで挙げております。

まず、イメージ1ですが、「観光客重視型」となっておりまして、「おもてなし」をキーワードとし、来訪者（観光客）を意識した既存機能の拡充や各種新規機能の導入を図り、玄関口としてのまちづくりを進めるイメージです。導入の機能としましては、観光案内機能・物産機能の充実といったことになっております。また、こちらの方で事例をお示ししておりますが、長野駅、こちらの写真は善光寺口広場の写真なのですが、こちらはバスのネットワークが整備されておりまして、善光寺までの乗り入れがスムーズに行くようなバスの優先配置がされております。

続いて、イメージ2「交流促進型」、こちらはまちづくりの考え方は、観光客の利便性とイベント機能などの市民の非日常性を重視し、広域交流の拠点としてのまちづくりを進めるイメージです。ターゲットは市民と観光客（来訪者）でありまして、まずここでは導入機能としまして、休憩・待合・交流の機能の充実が図られると思います。また、ここで事例としまして、下の方に姫路駅を挙げています。姫路駅では、地元のいろいろなイベント等を駅の広場等で開催されております。こういった機能が加賀温泉駅でも必要ではないかということで、「交流促進型」ということでイメージ2としてまとめてあります。

それから、最後のイメージ3になりますが、「市民生活支援型」、ターゲットは市民、そ

れからビジネス客、通勤・通学者となっております。交通結節機能の強化とともに、行政サービス機能などを導入し、市民の日常的な生活の快適性を図るといったイメージになっております。こちらの方では事例としまして、岩手県の紫波中央駅を挙げております。オガールプラザの公民連携ということで、こちらの方は民間が施設を運営しております。それぞれ図書館、ここにマルシェとありますのは生鮮食品の販売等を行っています。あと子育て応援センターなどもこういった民間に任せることをしているといった事例もあります。ということで、温泉駅につきましては、民間の活力において駐車場などの整備を図ってはどうかということで、「市民生活支援型」ということで案を挙げております。資料の説明は以上になります。

今回の検討議題の内容につきましては以上になります。よろしく願いいたします。

(水野委員長) はい、ありがとうございます。それでは、最初、何かこれはどういうことというご質問を、どこからでも結構でございますので頂きたいのですが。

私から。5ページの(4)の「加賀温泉駅に降り立った人は、約8割は加賀の温泉地へ向かう」という表現は、観光客と考えていいのですか。このデータは、もし8割だとすると、駅をどう造るかとか、どう性能を持たせるかということの非常に大きな要因になると思っております。新幹線が来ると、これは多分減ることはなくて、増える方に行くと思います。そうしますと、例えば先ほどの駅のパターンを1、2、3、市民重視型でいくか、観光型でいくかとか、それから、駐車場の量の算定、この人数に0.13掛けてどうのこうのとやっていますが、その根拠はなくなってしまうのではないかとを含めて、これは非常に大事な数字だと私は思っていますが、いかがでしょうか。

(事務局) 補足説明ですが、この8割が加賀の温泉地へ向かうという、この調査日が実は土曜日で、休日に関しては観光客が割合多いです。ですから、土日に関しては8割がという話でありして、月～金の平日に関しましては、通勤・通学が非常に多いという結果になっております。ですから、平日と休日のバランスを考えて計画する必要があるかなと考えております。

(水野委員長) そうすると、このデータは独り歩きしそうな扱いですね、この文章を読むと。例えば私が申ししたのは、6ページの同じく(4)ですね。平成35年に1388人が乗り降りして2776人になって、その1.27掛けるということで3600人。そして、3600から駐車台数を引き出していますね。その辺の扱いですね。根拠がなくなってしまうのではないかと思います。土曜日の一瞬の8割で計算してしまうと。というのは、高岡でやったときもそうですが、観光客は駐車場に車をとめることはほとんどないです。地元の人に使うために駐車場を造るのです。ということからいうと、駐車場台数の算出根拠としてはならないのではないかと思います。それはちょっと質問でした。

他に何か。

(A) 今の水野先生のご質問に関連してなのですが、5ページの先ほどの右上の(3)の図表を見ると、平成16年は普通切符の人が約1500人、定期が800人、全体で2300人とい

う形だったかと思うのですが、平成 25 年は普通の人 が 1100 人で、定期が約 800 人、合わせて約 2000 人の人が加賀温泉を利用するという こと。そうすると、単純に普通の人 のところを 足すという形で見 ていくと、1145 割ることの 1942、6 割ぐら いが観光客だと思 えばいいの ですか。

(事務局) 6 割、ざっくりはそうですね。

(A) そうですね。そうすると、次の 6 ページですが、将来乗降客数 3600 人となっ ていますが、先ほどの 5 ページでは大体 800 人ぐら いが定期で、大体これはずっと過去トレン ドは変わっていないので、3600 人から 800 人を引くと 2800 人だから、2800 人割ることの 3 で、約 8 割ぐら い需要がさらに増えていくというざっくりした計算ですが、そんなトレン ドの傾向があると思 えばいいわけですか。より観光客に特化しているというのか。これを 本来ならば小松駅だとか、松任駅だとか、金沢は今ちょっと観光客が多くなっ ているかもし れませんが、他の駅と比べて加賀温泉駅が観光客にもともと特化して いて、新幹線が来る ことによっ てさらにそれが際立って くるというよ うな何か根拠があると、この駅の特徴が分かるかなと、私は今、ざっくりと計算機だけではじいているのでちよ っと乱暴ですが、 そういうものが分かれば いいかなと思 うのです。

(水野委員長) おっしゃることは理解できますね。

(B) 今のグラフについてなのですが、ざっくり普通乗車券と定期券で分類されて いるのですが、この普通乗車券というの は観光客とは限らないと思 うのです。例えば小松ま で行くとか、金沢まで行く地元のお客さんなども必ずいるはずなので、これは内訳をもう ちよっと精査できないですか。純粋に観光客と、それから、地元のちよ っとした買 い物とか、仕事とか、そういうところ で使われる普通という扱 いの内訳です ね。これがもうちよ っと分かると、本当に観光客がどのぐら いいるのかとい うことがきち っと出ると思 うのですが、 もしかすると観光客がもうちよ っと減るの かなという気も します。

(水野委員長) その辺は非常に複雑というか、ある意味では単純なの ですね。算定根拠 ですから単純な のですが、算出とい うのはどこか でデータをきち っと取らないとい けないとい う、その複雑さ ですね。その辺は どうなのでしょう か。

(事務局 A) 実際「普通」と書いてあるのは、定期以外という扱 いですが、おしや るとおりでございまして、観光客も含み一般の定期を使っ ておられる方以外の普通 の、通常 のアクセスをされる方も含みでございまして、その内訳がないとなかなか見 えないとはご もっともです。今までのデータの中で整理したものでありまして、今後の課題 としますが、 ただ、定期外というものが全て観光客ではないとい うことを鑑みて、ちよ っと書けるこ ともあるかもし れませんので、表現をもう一度精査し まして検討さ せていただい て、言える ことの中で観光客がどれぐら い見込まれるかとい うことを分析してみたいと思 います。ま だまだデータがそろっていないのですけれど も。

(B) 今までのどこの駅までとか、発券データが残っていると思いますので、調べることはできると思います。

(事務局 A) 多分出口調査で補完すれば少しは分かるかなと思います。何せ土日は観光客が多いという、この駅の特徴は平日と休日の利用がかなり変わってくるということになりますので、その辺もまた精査していきたいと思います。

(水野委員長) 今の冒頭と関連するもう一つの質問ですが、現状の駐車場がありますね。342 台、これの充足率、利用率はどうなのでしょう。空いているのか、いつも満タンなのか。ちょうど適当なのか。

(事務局) この民間駐車場で一番大きいのは 140 台という隣の商業施設シティさんの駐車場になるのですが、こちらの方は土日はほぼ満車となりまして、140 台埋まるということです。

(水野委員長) 土日が満車というのはどういうことですか。通勤ではなくてお出掛けか。市内の人のお出掛けの。

(師池委員) いや、県外にお出掛けでしょう。土日に向かって近畿方面とか。

(水野委員長) だから、市内の人がご利用になって出掛けたときの。

(師池委員) 市内の方が。

(水野委員長) だから、通勤とか通学とか、そういう形での満車ではないのですね。要するに月、火、水、木、金は結構空いていると。

(事務局) そうです。月、火、水、木、金の平日は、ここの駐車場で行きますと約 6~7 割、100 台前後と聞いています。

(水野委員長) 高岡で駐車場を、9 ページを見ると、高岡は 800 台と群を抜いて多いのですが、これは広域の人、富山より高岡に行った方が駐車場がただだから安い。利用してもらおうという積極策を取るのですね。七尾の人でも金沢に行くより高岡に来てもらって、高岡自身が集まってほしいという、そういう誘客戦略で高岡はものすごく多いのです。だから、そういう戦略を組むか組まないかも含めてですが、どれだけの駐車場にするかというのは、観光客も使うと、地元の人これから利用の予想する数とで決まってくる。だから、乗降客であまり決めてしまうと数字にならないのではないかといいところがあると思います。

高山先生、その辺はどうですか。ご専門で。

(高山委員) 難しいです。戦略的に、本来、必要台数でどれぐらいということを想定した上で、プラスアルファ戦略的にどれぐらい上乗せするかということかなと思います。一番難しいのは、非常にあっちに転んだり、こっちに転んだりする飛行機との兼ね合いですよ、恐らく。今は、加賀の方々、あるいは小松の方々は飛行機でまだ結構東京へ行ったり、ビジネスを含めてあると思います。新幹線が便利になったといたって、わざわざ金沢まで出ないといけないのです。だから、まだそこそこ便数も確保されていますので、そういう意味では飛行機利用は結構あると思うのですが、これが新幹線が開業したときにどうなるのか、非常に分かりにくいのですよね。先日の新聞にはいろいろとショッキングな、現在新幹線を利用している方の、次回も利用すると決めているのは1割5分ぐらいで、8割5分は飛行機に乗るようなイメージで書いてありましたが、実際は決めていないという人らしいのです。どっちにするか決めていないという人を含めてそういう結果だったのですが、それにしても、新幹線が敦賀まで開業すれば、少なからず今、飛行機を利用している観光客、あるいは地元の方も新幹線の利用が考えられますよね。それをどれぐらい見込むか。新幹線開業によるプラスアルファの、金沢駅は利用者が2倍ぐらいになったというのがありますが、その2倍の中には3割の飛行機利用者の減が恐らくそっちに乗っかっているのですが、それとあとの部分は誘発というか、開業効果です。プラスアルファの。だから、そこをどう見るかというのは非常に難しい問題なのですが、こういう既存の現状での推計にプラスそういうモダシフトというか、飛行機から新幹線に移る部分、それから、プラスアルファの部分はどう想定するかということはやはりちょっと考えておかななくては行けない。

さらに言うと、今、水野先生が言われた戦略的にそれにプラスアルファで持ってくるのかどうかということだと思のですが、ただ、新高岡駅との違いは、これを見ると場所がないのですよ。だから、戦略的にという余裕は、恐らく加賀温泉駅周辺にはなかならうと。よほど立体駐車場でもぼんと造れば別ですが、そうでない限りはなかなか難しいかなという気はします。

(水野委員長) ちょっと付け足せば、高岡とか上越は新しい駅ですね。だから、周辺を区画整理して土地利用をどうしようかというパイを持っているのです。加賀温泉駅は、今の駅舎と駅広の範囲でしか考えない。これは前回のときかなり話題になった話で、もう少し広げて考えないと都市改造にならないのではないかという話が前回出ていましたが、今回もこの範囲で考えていくという形で案が出てきています。そうすると、この範囲では答えが出ませんよという言い方はできるかもしれません。

それから、金沢の場合は、それがフォーラスとか、Rintoとか、あれがまたえらい集客力があってあふれているのです。だから、いろいろと複雑な要因が入っていますよね。それでも金沢は結構、時計台にしても、市の駐車場にしてもいつも結構入れますものね、われわれが行っても。土日はあまり出ないから分からないけれども。

(高山) 土日はいっぱいですね。

(水野委員長) そういうわけで、はい、どうぞ。

(師池委員) すみません。何度も手を挙げてしまって申し訳ございません。現状をちょっとお伝えしたくて、皆さん、すごく数字のこととか、ここに駐車場があるからと言われますが、現実、市民はどこを使っているかという、ぶっちゃけ、開いている時間の隣の商業施設シティにかなりとめているのが現状です。なぜかという、市の持ち物ですよ。あの一番近くのタクシー乗り場の所に市のものがありますが、お高いですよ。ちょっとだけなら、送迎に使う分ならただ、30分はただ。30分ですね。

(事務局) 30分。

(師池委員) ちょっと美術館を見にいこうかなぐらいに、そこにとめる人はいないと思います。隣の商業施設を使われると思います。ついでに買い物をしていく方もいれば、まっすぐ帰られる方もいます。今の現状にマイナス何台なくなるのでしたっけ？

(事務局) 210台。

(師池委員) 随分減りますよね。210。そうなった場合に、後ろでもありますが、契約でするので、その場ですぐにとめて、その場で何かちょっとお金を払っていくところはその間にないですね。加賀市の人たちは知らないです。早い時間は、今、後ろの民営駐車場にとめていると思うのですが、多分オープン時間は隣の商業施設のお世話になっている人がほとんどだと思います。この現状を隣の商業施設は多分我慢している、耐えている状態だとは思いますが、それなら市の駐車場がどうしてそんなに高いのかというのも聞いてみたいところですし、実際こちらは田舎ですよ。田舎の特性を活かした場合、駐車料金を取るということは市民にとってはものすごく、自分のところをばかにするわけではありませんが、なぜ田舎で駐車料金を払わなければいけないのかと思うのが加賀市民の感覚だと思えます。そこを考えていただかないと、きっと何かまた、この数字だけに頼った、市で立派なものを優遇的に使って、これを使ってくださいと言うけれども、「そんなもん使えんわいね」と言う市民の方がほとんどになってしまうので、そこら辺を考慮していただきたいと思います。すみません。

(四十九オブザーバー) 数字の話なのですが、ちょっと言っておかなくてはいけないと思うのですが、9ページの乗降客なのですが、あまりにもわれわれが発表した数字と乖離があります。例えば新高岡は7400とありますが、これはどういうデータかなと思っているのです。とか、糸魚川が3200、宇奈月2700とあるのですが、上越妙高はまあまあこんな数かなと思ったのですが、ただ、新高岡はすごく乖離があるので、あまりこれを出されてしまうと。

(水野委員長) 今、新高岡はどのぐらいなのか。

(四十九オブザーバー) うちが出しているのは乗車で1600人、ただし、団体は含まない、要は改札通過人数だけですから、若干それより多くなると思います。

(事務局 A) 上越妙高から新高岡のこの数字なのですが、ちょっと見にくいですが、実は実績が1年間集まっていなかったの、他と合わせるために計画段階の数字を入れています。ですから、現実の数字と乖離しているのは、申し訳ございません。

(四十九オブザーバー) ええ、下に確かに書いてあるのですが、あまりにも数字が違うものですから、一応うちも公表していますので、できればその数字ぐらいいかなと思っています。

(水野委員長) そうですね、はい。そういう数字を使って、平均値で0.13掛けていますので、実際の数値があればその方がいいですね。

(B) 駐車場に関してなのですが、新幹線の高架下は駐車場として利用は可能なのでしょうか。法規的に駄目とか、そういうことですか。駐車場を設置したところもたまたま見掛けますけれども。

(四十九オブザーバー) 一応われわれは機構さんの方からお借りして、そこをお貸しするというのは可能です。ただし、お貸しする場合も、例えば行政とか、あるいはうちのグループ会社等々にお貸しして、なぜならば、駐車場を造るにしてもいろいろな規定がありまして、橋脚に当たってはいけないので柱巻きに鉄板を巻くとか、いろいろと決まりがあります。ですから、そういう面でありますので、造れないということはないです。今も実際金沢以東ではその計画がありますから。

(水野委員長) 駐車場問題は、例えばこの数からいけば、駅広を全部駐車場にしないと駄目だという話になって、駐車場しかできないかもしれない。正確にやっていくと。それであるとするのだといたら、あとは土地をいつか買いますかという話になったりしてしまう。あるいは特別な立体駐車場をぎりぎり造って、それで何台入るといった話になったりする。それはちょっと行き詰まるのですが、そのときの計算の根拠がちょっと大ざっぱすぎて、観光客がほとんど多い方の数字を使って算出したり、いろいろとしている根拠が分からない部分があるので、その辺をもう少し精査していただかないと難しいかなと、これを考える上で。駐車場しかないのではないのという話になってしまったら、何のための委員会か分からなくなってしまうので。

それと、先ほどの隣の商業施設の駐車場の利用については、多分隣の商業施設の方も、田んぼの中にあるのでお客が来てほしいということがあるから認めているのですが、満タンになり始めたら、あの駐車場もチケット方式で、必ず領収書がないと駄目だとかそういうシステムに変わると思います。それはどこでもそうです。だから、今のところは逆というと誘客戦略として使っていると思うのですが、それをお互いにメリットで使っていると思うのです。だけれども、あるところに来たらそれができなくなるだろうと思われま

で、そのときに市なり、公共駐車場はどうするかを考えなければいけない時期が来ると思っています。

はい、ちょっと駐車場問題に集中しましたが、その他に。特にご質問がないようでしたら、少し現状をお聞きしたいと思いますが、1 ページについては前回の整理ですが、よろしいですね。これに対して対応の説明がされておりました。

2 ページ目です。赤枠の中ですが、基本コンセプトと導入機能、それから、その解決の方法について、今回考えたいということです。その下に少し小さい字で書いてある、利用者特性、将来乗降客数、これについては今いろいろと議論したところでありまして、大丈夫かなという理解でした。

それから、新幹線駅舎のデザインコンセプトにつきましては、前回に確か四つ出ましたね。7 ページの黄色いところの上に、デザインに求められるものとして、「加賀市らしさ」「存在感」「アピール力」「市民に愛される」という四つのデザインコンセプトがあると。それから、その下に七つの駅のデザインコンセプト等が書いてあります。だから、この「加賀市らしさ」「存在感」「アピール力」「市民に愛される」というのは、耳障りのいい言葉になっていて、実質がどうなのか、これが非常に大事だと思います。先ほどの全部駐車場になってしまうのではないかということを含めて、「加賀市らしさ」「存在感」「アピール力」のある「愛される駐車場」という、そんな形になってしまいかねないわけです。

その次に3番目に、駅舎からの眺望景観の現状と課題という形で、今回は非常にきれいな、8 ページですか、俯瞰した写真が出ております。これでホームからの眺望景観は想像いただけると思うのですが。

(高山委員) 私は上に上がって見たことがないので、この写真のように、こんなふうに見えるのだと思うのですが、一方、3 ページの柴山瀉から見た白山の眺望は素晴らしいのです。これは天気の良いときに撮っているからなおさらなのですが、ぜひライブで、柴山瀉のこの地点にカメラを置いて、それを駅舎から、どれぐらい大型のモニターを付けられるか分かりません。これはお金の掛け次第ですが、モニターで見えるようなところをつくるというのは、僕は面白いのではないかと思うのですが。

(水野委員長) ずっと柴山瀉から映しているのね。

(高山委員) そうです。

(水野委員長) それもまたすごいね。そうすると、もう少し例えば長流亭が映ったり。

(高山委員) それでもいいのです。何かその場所、場所のやつが。

(水野委員長) 加賀市が自慢したい10カ所がぼろぼろぼろと変わっていくとか。

(高山委員) それもいいと思うのですが、これはやはり素晴らしいですよ。

(水野委員長) そうですね。小松の木場潟といい争いですね。

(高山委員) ねえ。駅舎からだったら、手前のこれがじゃましているからなおさらですが、もうちょっと上げたとしてもちょっと目障りと言ったら怒られますが、どうしても出てきますよ。位置的にも恐らくいい角度ではないですよ。それならいい角度の、他からだったらあれだから、柴山潟は確実に加賀市ですよ。ですから、加賀市の眺望はこれだぞというものを見せられるようになっていたら素晴らしいなと思います。

(水野委員長) 定点ね。

(高山委員) 定点。

(水野委員長) はい、一つのアイデアとして。

(高山委員) もっと言うと、先生が言われたように、ころころと変わるのもいいけれども、自分でチョイスできるように、ボタンを押して、ここを見たいとか、あそこを見たいとか、カメラをスイッチングできるようにしておいたらなおさらいいのではないかと思います。

(C) 現在もあります。温泉駅の前に、

(高山委員) ああ、あるのですか。見えるのですか。

(C) 僕は見たことはないけれども、そんな施設がありますね。

(水野委員長) それはガイドであって、現状の。

(高山委員) ライブカメラではないのでしょうか。

(C) そんなものではないです。一般的なよくある。

(水野委員長) ガイドですね。

(高山委員) そうではなくて、やはりライブカメラがいいですよ。絶対いい。

(C) いい意見だと思います。

(水野委員長) 山代のそういうところがある、片山津のそういうところがある。

(C) 鴨池のカモが飛び立つとか、そういうのか。

(水野委員長) 何か10種ぐらいはそのコマがあって、それを押せば出る。とにかくそのような装置をぜひ。

(高山委員) ちょっとアイデアとして。

(C) 無理なのかもしれないけれども、隣の商業施設の屋根越しに白山を何とか見えるように、ホームの一部をちょっと高く上げて、そこから見えるとか、何かできないのかなという、夕日、先生がおっしゃったこの景色、これはきっと源平橋の上から見た白山だと思いますので、夕日がかかっているのはすごいきれいですし、だから、温泉駅からも見られるようなことができれば、ぜひ考えていただきたいと思います。大阪寄りへ50mほどホームをずらすと本当にきれいに見えるのですが。

(水野委員長) 上越妙高から妙高が見えるように引かれていますけれども。

(B) 今、眺望の話に集中しているのですが、もちろん眺望はいいに越したことはないのですが、玄関口になる駅ですので、周辺、かなり広域にわたって景観条例とか、景観協定のようものをやはり設定して、そのお手本になるような駅舎周辺でなければいけないと思います。近場でしたら金沢が非常に精緻な条例を設けて、私が感じるのは、一番有効なのは、いわゆる看板などの規制ですね。高さとか、面積とか、非常に細かな規定があって、委員会を通らないとそれが設置許可されないという、そこが一番特徴だと思うのです。そういう仕組みを加賀でも作れないのかなと思っています。条例があるというだけでは守ってくれるかどうか分からないので、必ずその委員会で許可されないと設置できないという、そのぐらいの強いものをできないかなと思っています。

(水野委員長) 金沢は30年かかって、看板から、舗装の色から、建築の色から、植樹から全部規制していった。

(B) 非常に細かいですね。

(水野委員長) 「こんな面倒な都市はあるか」と言ったら、山出市長さんが「面倒だからいいんだ」と、そのぐらい言い切る。それから、上越は、交通標識など案内標識を全てコントロールして、デザイン委員会を立ち上げて、そこで全部市域全体と駅周辺と統一させましたね。そのように何かこれを機会に加賀市が抱えていた課題を解決するという、そういう手段で開発というのがある、いっぱい存在しているのですね。

(B) 今、ちょうど山代温泉の温泉通り商店街というものがあるのですが、その辺の周辺で、今、景観協定を作ろうという動きが始まっています、そういったものとも連動させながら、加賀市内の重要なエリアにおいてそういう条例、あるいはコントロールというのが一緒に発効されていくといいなと思います。

(水野委員長)　そうですね。

(丸谷委員)　それとあと、既存の本当に要らない看板がすごく気になるのですが、それは取り外しとかというのはないのですよね。もう既にないような建物の看板とか、傷んだものとか、かなり目立つ大きなものがあったりするのですが、そういう制度がもしできればきれいになるかなと思うのですが、今のそれと併せて。

それと、駅舎内の設備についてというのは、少し提案というか、お伺いしてもいいのでしょうか。

(水野委員長)　はい、そういうこともオブザーバーで来られて、全て受け入れられるかどうか分かりませんが、こういうことをしていただけたらうれしいなという要望はしているのではないかと思います。

(丸谷委員)　トイレなのですが、隣の商業施設の1階はものすごくきれいになりましたが、あのようにして、今、高齢者の方もどんどん外に出られますし、車椅子の方も増えるので、子供さんのトイレはかなりしていますけれども、高齢者の方のちょっと着替えもできるような、そういうものもあるとすごく親切だと思ったりしているのです。そうすると駅にいらっしゃる滞在時間も長くなるので、駅の中でいろいろな催しものなどをしたときにたくさんの方に利用していただけるかなとは思いますが、どうでしょうか。

(水野委員長)　そういう要望は全部入れていいのではないかと思います。また駅舎の方もそういう姿勢がずっと最近見えませんよね。北陸新幹線各駅に。

(丸谷委員)　ええ。

(水野委員長)　特に外国人の方がいっぱい来られたり、非常に大きな荷物を持ってこられたり、それから、車椅子の人が増えてきたりしている、いろいろな状況の中でどうやって今までの駅と違う駅にしなければいけないかということは非常に進んでいると思います。だから、そういうものはどんどん出していただいているのではないかと思います。

あと、先ほどの看板の話ですが、この駅周辺はガーデンシティという加賀市の基本構想がありますが、それに併せて看板規制しましょうよと決めるのは決めたっていいと思います。この範囲のところだと。

(C)　何代の市長に繰り返し僕は言っているのですが、少なくとも前面の大通りぐらいは規制をかけて、降りたら、ああ、温泉駅に来たなというような雰囲気にする。今、先生がおっしゃったガーデンシティ、あれなどの基本構想に。

(水野委員長)　はい。それから、今日の今回協議の中の4番目ですか。駅周辺の駐車場の現状と課題、これについては先ほどから議論になっております。

それから、新幹線高架下空間の利用というのは、これについてはまたいろいろと提案があると思います。

それでは、次、3 ページの全体の枠組みの中から加賀温泉駅を位置付ける、このあたりですが、基本コンセプトです。これについていかがでしょうか。

(高山委員) 一ついいですか。「加賀市らしさ」、これはどうやって表現しますか。もともと加賀市というのは、僕も金沢にずっと住んでいるのですが、加賀市のイメージというと、やはり温泉と大聖寺、温泉は幾つかありますが、でも温泉以外で目立つのは、重伝建のところと大聖寺かなと。それと幾つかの町、小さな町が合併してできた新しい市なのですよね。それ以外に、では加賀市らしさといったときに、部分的には瓦の色がちょっと変わっているとか、白山が非常によく見える所があるとか、鴨池だとか、幾つか出てくるのですが、それを加賀温泉駅にどう表現するか。なかなか難しい。加賀市の方々は、では加賀市の自慢は何ですかと。加賀市といたら、一つ、二つ、三つぐらい挙げたら、今、私が言ったようなもの以外に何かありますか。

(B) イメージということではなくて、具体的に例えばこの駅舎ということを見ると、ハードを整備していく上でどういったものがアイコンになっていくかということだと思うのです。その場合に、実は非常に散漫なイメージがあると思うのですが、何かこう視覚的に訴える、あるいは触覚的に訴えるとか、そういったものから考えると、まず一つは温泉街のべんがら格子、まだこれは少ないのですが、そういったアイテムですね。それから、九谷焼ですね。これは非常に量産の苦手な産地ですので、ピンポイントに使うというイメージになってくるかと思いますので、そういったもの。それから、あとは北前船の景観地区の木材の使い方とか、そういったところが非常に重要な視覚的な要素になるのかなと思います。そういったものを駆使しながら加賀市のイメージをつくり上げていかないと、これというものはないですね。金沢のように強いイメージは形成されていないですね。

(高山委員) これからつくり上げるということ？

(B) ええ、つくり上げればいいと思います。

(水野委員長) ちょっとお尋ねしたいのですが、加賀駅ではなくて、今度も加賀温泉駅と続けるのですね。温泉が出てくるのですね。

(四十九オブザーバー) 名前はまだ決まっていないのですけれども。

(水野委員長) ああ、そうか。

(四十九オブザーバー) 多分そのまま加賀温泉、いや、こんなことを言うてはいけないのですが、まだ分からないですけれども。

(水野委員長) 反対もあまり出てきていないと。加賀温泉駅は変えた方がいいとか。

(四十九オブザーバー) いや、そういう話題もあまり出ていないというのが現状です。

(水野委員長) 出ていないのですね。加賀温泉駅と出たら、やはりお客さんは温泉がすぐが一つと来るね。加賀駅と来ると、何があるだろうと思うけれども。

(D) 加賀温泉郷と付かないかというのは、若い人は。

(水野委員長) ああ、ふるさとの郷。

(D) はい。温泉郷駅ではないのという、そういった声があります。

(水野委員長) 温泉が一つではないから。

(D) そう。

(四十九オブザーバー) 一つは在来の駅名もあるので、別々にするのですかという話も、そこは考えていただかないと、今、多分並んで並行である駅はほとんどがそのままの駅、富山駅しかりですね。

(水野委員長) 上越妙高はどうでしたか。

(四十九オブザーバー) 上越妙高は、もともとあれは脇野田駅だったのですが、脇野田は離れていたのですよね。無理やりくっつけてしまったのです。

(水野委員長) くっつけてしまったのですね。それで脇野田はなくなった？

(四十九オブザーバー) なくなったのです。そこは開業までは脇野田駅だったのです。開業と同時に上越妙高になった。

(水野委員長) そうすると、やはり温泉というのが非常にイメージなのですが、ここの温泉に来たら何があるかと思わせるときに、九谷が出てきたり、私はもう少し大聖寺藩が出てきていいと思っているのですが。やはり前田家の影響がものすごくあるから、長流亭はじめ、山ノ下寺院群。

() そうですね。

(水野委員長) それから、お菓子とか、武道とか、文学とか、そういうものを見ると大聖寺藩の影響は大きいなと思うときがあるので、大聖寺というのはあるなと思っているの

ですが、それをどう出すかがものすごく難しいですけれども。

(C) ハードの面も出せばいいけれども、人間力、加賀市の人という、何代か前の市長さん、由布院へ行っていましたね。あれはどんな結果になったのか全然分からないけれども、あれは1年ほど行っていたのではなかったですか。

(事務局) いや、3年です。

(C) 3年行っていたのですか。それが何かもうちょっとみんなにPRして、少なくとも温泉街ぐらいはこんなふうにするぞというようなことで上げていくといいかなと。加賀市に降りたらこんなのだったみたいな、由布院ぐらに行くと、布団敷きのおばちゃんまでが本当におもてなしの雰囲気ですから。だから、ああいうことも一つ加賀市らしさでいいかなと思います。

(水野委員長) おもてなしがちゃんとしていないと、もうこれからの時代駄目ですからね。大量動員の。

(C) リピーターを求めるといふか、そういう。

(水野委員長) はい。量の問題ではなくて、質の問題にすぐ来ますからね、温泉観光。

この3ページで私がちょっと気になるのは、この加賀市ガーデンシティ構想検討資料というのがありますね。右から2番目のこの図がありますが、加賀温泉駅が重点エリアになっているのは、あれは何だろうなど。これこそ今の話ではないですが、もてなしエリアではないですか。駅も一種のもてなしエリアではないかなと思うのです。

上越妙高が乗降口の所をやはりもてなし空間にしています。金沢駅のもてなしドームというもてなしをしています。やはり駅によろこそ来ていただきましたというもてなし空間として整備するというのとは一つの基本構想の中に入っているのですが、ここでいうと、私はこの最初のもてなすところがここではないかと思うのです。インターチェンジというのは滞留がないですね。ずっと過ぎるのです。駅というのは、ある時間滞留したり、乗り換えたり、待っていたり、いろいろとする時間がありますので、もう少し空間的に人がそれを体験するというのが駅です。だから、われわれのこの委員会自体を少しもてなし空間的に考えた方がいいのではないかと思っています。だから、さばくというのではなく、機能的にさばくというだけではなくてという意味です。

(丸谷委員) 軽井沢の駅にふれあい広場か何かあるのです。駅のにぎやかならだらとしたものでなくて、ちょっと行ったところなのですが、同じ線上にあるのですが、かなり広い空間でゆったりした椅子が置いてあって、景色がすごくきれいで、そこは本当にのんびりと座っているだけの空間があったのです。あれはいいなと思いました。かなり広くゆったりしていて。そういうスペースがあれば、それが白山の見える場所であればなおいいですね。

(C) 足湯があったら、できれば、いろいろな思いが広がる。

(水野委員長) あともう一つ、このガーデンシティ構想の左に新交通体系検討資料とありますね。この中にちょっと書いてあるのかもしれませんが、加賀市域の公共的なバスの運行ルートとしては駅が終点になっているのですか。それとも駅行きというのは非常に少ないのか、どういうバスが多いのですか。

(事務局) そうですね、一部大聖寺につながっているものがありますが、基本的には全て駅、それから、新しい病院ができますので、その病院と駅が終点になって、それから、ここに小さく乗合タクシーというのがありますが、これも駅に全部集まる形で、そこがまた連絡点になって、その乗合タクシーから乗合タクシーに乗り換える、乗合タクシーからバスに乗り換えるとかというような意味では、駅はやはり結節点として。

(水野委員長) 機能していると。

(事務局) そういう形に持っていけるように、今、進んでおります。

(水野委員長) はい。そうすると、新幹線と加賀温泉駅の結節点は、公共交通の結節点機能としての整備も必要だということですね。金沢が公共交通を全部駅に集めてしまったのです。東、西に行くのも。東京に行くのも、大阪に行くのも、軽井沢に行くのも、松本に行くのも、みんなあそこなのです。だから、人が全部あそこに来るようになってしまったものだから、非常にアクティビティーが出てきてしまって、中枢性が高くなって、賑わいがどんどんどんどん生まれてしまったのです。しかもホテルだ、何だかんだとそれにくっついてくるから、片町、香林坊が相対的に低くなってしまふのは、やはり交通結節点機能が片町、香林坊よりずっと強くなってしまったのですね。

東京駅がすごいのは、全ての新幹線、地下から空中から鉄道をいっぱいやって、とにかく東京駅を終点にしようということをがんがんやってきている。大阪は一つもやっていないから、どうしても地盤沈下してしまうのです。結節点機能がないから。通過機能しかないから。だから、北陸新幹線で大阪を呼ぶというのは、大阪は橋下さんなどが替われば必ずそのようになると思うのですが、大阪を考えるとというときに、私は新幹線を絶対持ってくるということを大阪から要求したらいいのになと思いますけれども。そうしないと、大阪の中枢性はますます下がっていく。

そういうことも含めてこの加賀温泉駅の中枢性を高めるとすれば、そういったバス路線、それから、コミュニティーバスもありますね、そういうものも含めて一つの拠点になるといいなと思います。そうすると、少しずつ駅前をどう整備したらいいかという話が膨らんでくるのではないのかなと。

4 ページですが、イメージ1、2、3と出ています。これについていかがでしょうか。

(高山委員) 加賀市にお住まいの方々は、この三つのイメージのどこを重点的に、駅を

造っていくかといったときに、このイメージ1、2、3、どれを望むのですか。

(水野委員長) 数字上からいうと、8割は観光客だとすると、イメージ1ですね。それから、駅名からいっても1ですね。だけれども、2と3があるという声の中から出てくると、これまた面白いと思いますね。そういう意味で高山先生の今のご質問は。

(高山委員) そうなのです。だから、現状で言えば1なのですよ、確実に。ただ、市にお住まいの方々は、いやいや、新しい新幹線駅だけれども3でいく、市民生活を支援すると、やはり現状とはだいぶ離れるかもしれないけれども。あるいは交流型でいくのだ。中間的なものですね。どこを望むかでだいぶ違うと思います。普段の生活の中では恐らくそんなに使っていないと思うのです。恐らくね、今はですよ。それを将来どのように使うかということ想定して整備していかないと。

(師池委員) この三つにばかり分けるとするのは難しいのですが、私も実家はもともと商売系のものであったので、観光客重視型の方がいいなと思うのですが、例えば交流促進をその向かい側の美術館の方で何かできないかなとか、あと、このイメージ3の中の地産地消と物産などは、観光客の人に向けても発信してもいいかなと思うのです。この三つのうちのどれかにしようというのは多分難しいと思うのですが、やはり重点的には1から考えてしまいます。

なぜかという、2で交流促進も素晴らしいのですが、私たちの団体の方で週末、駅前で加賀市の持っている土地でやらせていただいています、本当にハードです。高野弁当さんの協力を得て、一人パートを入れてもらってやっている状態なのですが、あれをずっと続けずに、いろいろな人にいろいろなことのイベントをやらおうという周知が全然できていないのです。市の方でもできていないですし、こちらの方でつてを使ってやっているという、そういう状態では続かないです。ここまでオープンカフェとか、これは何か業者に入ってもらえばいいと思うのですが、こういうファッションショー、太鼓フェスティバル、イベントというのは、そこの場所を使ってやってくれというものをどれだけやってもらえるのか、それでどれだけ集客を得られるのかということは、私たちも駅前ですれができれば素晴らしいと思うのです。別に駅を使うわけではなくても、そこに集まってくる、賑わいができる、交流があるというのは素晴らしいと思いますが、これは別に、そうしたら美術館の方のスペースでやっていただいてもいいのではないかなと思いました。

(水野委員長) はい。このページの一番トップの方に、「加賀温泉駅周辺の導入機能」と書いてあるのです。ここがちょっとみそであるかと思います。例えば金沢でいうと、県の音楽堂は邦楽も洋楽も含めて全て造っています。それから、JALの方のホテルの中にはホールが入っていますね。350人ぐらいのホールが入っています。

(高山委員) 金沢市のホールですね。

(水野委員長) 金沢市のホールが入っています。それから、ホテルが結婚式場とか全部

持っています。だから、会議をやるとほとんど駅前周辺のホテルはそれをやっています。要するに最初から言っているのですが、駅広だけではなくて、周辺も含めて、どれだけ公共施設みたいなものを持ってくるかということだと思います。そのためにバスもここに集中させると。要するに車ではない移動の仕方、公共交通で移動するという、これは非常に大事です。だから、今、加賀市が何か中心的なスペースを大聖寺につくろうとするか、ここにつくろうとするかとか、そういう選択の問題だと思います。都市づくり、都市計画。だから、そのときにいろいろなものを持ってきて、ここは観光客だけではない一つの加賀市の中核機能を果たすゾーンだと、コンパクトシティの一つのゾーンだと設定すると市民というのが大きくなってきます。駅の乗降客だけを相手にしていたら、そんなにならないと思います。

だから、金沢市は駅の広場の地下に市民広場を造っています。あそこでいろいろなイベントをやっています。

(高山委員) 造った当初はあまり利用されなかったのですが、今、新幹線が開業して、その前から徐々に随分とイベントに使うようになりましたね。

(水野委員長) だから、市民が交流広場として使っているという、そういうことがあるのです。だから、何度も言うようですが、この駅広場、われわれが考える範囲内では、もう駐車場しかできなくなっている。駅周辺を含めてどう加賀市をつくるかという話がこの中に織り込んでこないといつも解決しないので、それは前回の話でも出てきたと思います。

(長谷川委員) 一つだけ。今、私が一番気にしているところにちょっと入ってきたので、私は今、美術館にいます。今、師池さんが言われたように、あそこを上手に使う方法を考えなければいけないと思うのです。単に美術品を鑑賞する場所だけでは駄目なので、観光のお客さんも、市民も、市民は隣の商業施設へ来る。今度病院ができる。そうしたら、やはり駅周辺が必ず市民のための広場になっていくのです。そこで、うちの美術館は小さいのですが、あの利用の仕方は今からなのです。だから、市の方から、金沢に新幹線が入ったぞと。そのときに加賀温泉駅も何かしろということ、うちの美術館までを駅から歩いて観光のお客さんが来る。あっ、加賀市はこんなところだなという、その魅力を出せる場所にするのに、美術館のホールを使わせてほしいというのがあったのです。だから、そういう計画も大いに考えましょうよと、受けるわけですが、何しろ施設がない、設備がないのですね。今、大変困りながらやっているのですが、あのホールでは、今、音楽会をやったり、そして、その上に上がると隣の商業施設のホールがあります。そこでもいろいろなイベントがあります。

うちの場所では、いわゆる加賀市内で物づくりをする人たちの作品をあのホールに並べようということで、3月の新幹線のオープンのときにそれもやりました。やはりそのホールが生きてくるのです。あれを活かす、今は待合の場所になっているのです。あれではつまらない。本当にいい待合ですよ。隣の商業施設に行くよりあそこに行ったらゆっくりできるし、おしっこもできるし、ちょっとお茶も飲めると。

(水野委員長)　そういう立ち寄るといっただけでも大事なのですね。

(長谷川委員)　そうなのです。それはもう開放しているのです。荷物を預かって、どうぞ、作品も鑑賞してくださいと、休憩していいですよと、ただし、食べ物だけはご遠慮くださいという規定でやっています。駅周辺の文化施設はやはり大事にして広めていかないと駄目だと思います。

先ほど加賀市に何が魅力あるかといったら、一つ忘れてるのは木製漆器なのです。挽物なのです。これは日本で1番なのです。

(水野委員長)　山中塗り。

(高山委員)　山中漆器ですか。

(長谷川委員)　これを忘れてはいけないのです。九谷の発祥の地、この二つも、駅を降りられてうちの美術館に来られて、「九谷焼美術館に行きたいのだけれども、どうしましょう」と聞かれるのです。「ここには九谷焼はないですよ」と、ないのですよ。置いていないのです。要するに交通の便がないのです。でしょう。「タクシーで行ってください」「タクシー幾らしますか」と聞いて、「ああ、やめた」とこうなるのです。だから、この文化施設に、全部含めてこういう巡回できる道路網をつくらないと、市民でさえ行ったことがないのですから。「九谷焼の館行ったことがあるか」と聞いてみると、「どこにある？」という理解です。それでは駄目なのです。あるものをもっと市民が知るためには、便利に行けるようにしてあげなければ駄目です。そんなことを考えます。

(師池委員)　もう一ついいですか。今、すごく問題点が一つあると思います。多分そこで長谷川先生がされているイベントを知っている市民は何%だったのか。私たちがやっても、何をやっても、市民の知るすがものすごく少なくて、加賀市の加賀温泉駅を中心とするならば、そこにいろいろなイベントの告知ができるもの、そういういろいろな情報ですよ。先ほどから言われていました、例えば九谷焼美術館で今何々をしていますとか、そういうイベント情報みたいなものとか、金沢駅には冊子を入れるところがありますよね。そういうところがあるとすごくそこが中心になって、みんながそこを利用するようになって、見にくるきっかけになると思うので、よく検討していただければと思います。

(水野委員長)　はい。加賀市の歴史・文化構想をいろいろと考えたときも、そういった情報をどうやって市民に知らせるかというのは一つの大きな課題だった。今、金沢も新幹線時代が来て、何をやっているか、県の美術館は何をやっているか、21世紀美術館は何をやっているか、どうやって知らせようかということで、いろいろな形で、紙媒体もありますが、今は情報の端末媒体が割と有効なので。

(師池委員)　端末媒体はあるのです。加賀市でもしてくれている人が出てきたのですが、

その端末媒体は観光客の方は知るすべがないのです。その場に来て、そこまで細かい情報を調べるという人は本当にまれだと思うので、それが分かるのはやはり紙のものが、高齢化社会というものもありますし、紙の媒体があった方が、ちょっとお金は掛かりますが、親切かなと思います。

(水野委員長) だから、そういう意味で、観光案内所を含めて、サービス施設として正式な案内所は必要でしょうね。

(長谷川委員) 今、この駅にあるのですよ、観光協会の窓口が。

(師池委員) あるのですけれども、あれは置けるものと置けないものがあるって、だから、結局、長谷川先生が先ほどやられていた情報は知るすべはないのです。いろいろなことをいろいろな人がやっています。それをフリーにできる、よっぽどあくどいことは別として知るといことが、ちょっとということとは別として、市民が使えるスペースがあると、漏れている情報がたくさんあります。意外と欲しかった情報などもありますので、あったら便利だなと思います。

(B) 今の状態はものすごく貧弱な状態なので、確かにパンフレットはありますが、どこの駅に行ってもあるようなパンフレットなので、ちょっとつまらないですね。インフォメーションセンターとはいえませんがね。単なる観光協会ですね。あの程度では駄目だと思います。

(丸谷委員) でも本当に興味のある方というのは、個人でネットで調べてピンポイントで動かれますので、いろいろなパターンがあるかと思うのですが。あと、加賀市内ですと、一応「キャンパス」が一応走っているのです。それも少し、あと民間の力を少し取り入れて、例えば今の美術館でも、完全に駅舎と歩いてそのまま外に出なくてもつないであれば人も動くだろうし、そのまま隣の商業施設でお買い物もできるだろうし、隣の商業施設のお客さんもこっちの方に流れてくる。つなげられるといいかなと思います。

(C) 雨に当たらないでいい。雨の場合、やはり屋根が必要ですよ。

(丸谷委員) 1回出るといのはなかなか行きづらい。

(C) 隣の商業施設を通らないと行けない。

(丸谷委員) 行きづらいですね。つながっているといいなと思います。

(水野委員長) はい。では4ページについては、現況とにかく素直に従うとイメージ1になってしまうのですが、イメージ2にするには、市全体含めて、加賀温泉駅を最初に造ったときは、隣の商業施設を入れないと誰も来ないのではないかということで、隣の商業

施設に来ていただくことを歓迎したのです。今度は病院ができると、ここが少しずつ中枢性を高めてくることになると思うのですが、さらに中枢性を高めるというものがないと市民広場にならない。単なる交通広場だけでできてしまうということになりますので、その辺は何か市全体の構想の中でどう位置付けるかだと思います。ガーデンシティも含めて、それから、歴史・文化拠点も含めて。

(A) 事務局さんにちょっとお伺いしたいのですが、ここに基本機能と導入機能というものがありますが、基本機能そのものは今ある機能なのですか。それとも市が最低でもこれだけの機能は広場に盛り込みたいという機能なのですか。というのは、多分これは今、レンタカーはない。

(事務局) レンタカーはあります。

(A) パーク&ライドは？

(水野委員長) パーク&ライド。

(事務局) はないですね。

(A) ないですね。今、2ページのこの範囲の中で、これ全部の機能を持つのだったら、この基本機能だけでもういっぱいになってしまうのです。

(水野委員長) いや、ただ、敷地が狭いので、いろいろと話し合ってしまうと、これは全部駐車場だけになってしまう。それを少し広げてということですから。

(A) そうすると、これを例えばどれを外に出すかということを検討しなければならない。多分取捨選択が必要になってくると思うので、師池委員さんからお話があった、例えば一般駐車場を思い切って隣の商業施設にお願いして、そこを貸してもらう。それはやり方としては隣の商業施設もメリットがないとやれないと思うのですが、それはむしろ高山先生がよくご存じの金沢のパーク&ライドみたいな、お店の商品券を与えて、隣の商業施設にもお金を落とすような仕組みをちょっと考えてもらうとか、そのような制度の中でどれを入れるかというのは、最低限必要なものというものと、こっちで両方がないと、何かこれは今、言った、全体な枠の、黄色い線の部分と全体との部分のごっちゃになっているものですから、何かその辺を少し、どれが最低限欲しいと真ん中に置かなくてはならなくて、実際に兼用できるのはどれか、観光案内所とか観光物産は、今の隣の商業施設シティの中でできますよと。使い方の部分で近くに使ったことがないという意見もありますが、そういうものを少し取捨選択をしていただいて、レンタカーなどは逆に、新幹線金沢駅すぐ使う、もっと近くなっていい、そうするとこの黄色い中に入れた方がいいということも多分出てくると思うので、もう少し基本機能そのものの取捨選択が出てきて、そこからどういう機能のところで、今お話があったイベント広場とか、それをまたどこに入れるかと

いうことになってくると思うので、出すところを少しいろいろと市さんの方で検討、仕組み的に考えていただけたらと思います。

(水野委員長) そういうことと、4 ページのイメージの 1、2、3 のどう選ぶかということも関係していますよね。

(A) そうですね。

(水野委員長) ええ。2 ページのこの赤い丸と黄色いかくかくと、黄色いかくかくというのだと何の発想も、ここだけはめろと言ったら、基本機能だけあればいいという話になってしまいますね。

(A) その中で出せるものと出せないものが多分あるので、そこはやって、とにかく行政の話と違って。

(水野委員長) はい、おっしゃるとおりです。4 ページについて、今の段階で「ここだ」と決めておりませんが、こういう話を重ねながら、最後はどこかに着地したいと思います。よろしくお願いします。

次に、5 ページからはデータですが、これについては JR さんの方から何かございますか。こちらのデータについて。

(四十九オブザーバー) うちが公表しているデータはこの (3) ですか。今のところ定期と定期外というものだけですね、あと、今後、新幹線のお話や並行在来線のお話になれば、またそれは別途市さんをご相談には応じることは可能です。また、市さんというよりも、県でも一応旅客流動調査をやっておられて、今回、福井さんもやられるのですが、並行在来線開業に当たって旅客流動調査をやっておられるはずですね、2 回やっておられるはずなのですが。そういう面では県にもデータがおありなのかなと。それは公表されるかどうか分からないのですが。

(B) 一つ確認します。この資料、先ほど若干整合性がというお話の中で、確認なのですが、5 ページの (3) が今、定期と普通のグラフなのですが、その表には 1 日当たりの乗車人員の推移がある。これは乗車人員ですね。それで、6 ページ、先ほどから言われている乗降なので、その辺の整合性がどうなるかなと。今後、先ほどの話で、まだ若干取れていないというお話があって、この辺は少し加味していただければなと思いました。乗車だけなのか、乗降なのかということ、それによって極端に言うと倍違いますので。

(水野委員長) 倍違いますね。

(B) はい。

(水野委員長) 比較データが乗車の比較データとか、乗降の比較データになったりして、その辺は両方使い分けているのでしょうかけれども。

(B) 先ほどの駐車場だけを使うのであれば乗車でもいいのでしょうかけれども。

(水野委員長) そうです。乗降である必要はないですね。

(B) はい。

(C) 9ページは、先ほど言われた新高岡の7400から1600、これだけ違うということで、現実を何か次のときにでも言ってもらえると、何となく、この感じかと思うので、それで駐車場の台数なども検証ができます。7400が1600、実際どうなのという。

(四十九オブザーバー) ただ、1600というのは団体が含まれていないので、多分それよりは若干多くなると思います。

(C) それにしても、それが倍になるとかということはないですからね。

(四十九オブザーバー) ただ、これは乗降ですよ。1600ですから3200~3300プラス団体のお客さま。

(C) それでも半分強ですね。

(四十九オブザーバー) そうですね。上越妙高はJR東さんが出しているのですが、大体こんな感じだったかなという感じですね。

(C) JR管内のやつは大体分かるのですよね。

(四十九オブザーバー) 新聞にもお出ししていますので。

(C) ああ、そうですか。

(水野委員長) はい。6ページは以上でしょうか。6ページは、先ほど言ったように、他の都市の平均値で1.27を掛けているという、この1.27は、加賀温泉駅の場合は非常に観光客が多い。それなのに平均値を取っているという、それがよく分からないのですね。

では7ページはいかがでしょうか。先ほどちょっと私の方からも言いましたように、一番上の方に、デザインに求めるものとして、前回四つのキーワードが出ておりました。「加賀市らしさ」「存在感」「アピール力」「市民に愛される」、こういうデザインの性格みたいなものですね。デザインの仕様書というか、性能ではなくて、性格みたいな話ですよ。いいのですが、先ほどの基本的な機能としての数値、量の問題、これをきっちり押さえて

おかないと、これは性格だけでつくれるものではないので、この辺が非常に難しいなと思います。この辺をどう持っていくか、最後はどこかで着地しなければいけないと思いますが、そういう課題があることを認識しながら、この言葉に触れていきたいと思います。

加賀市らしさとは何だ、存在感とは何だ、アピール力とは何だ、市民に愛されるとは何だと一つずつ問いただすと、これはまたイメージ論になって、結論が出るわけではないのですが、この言葉もあるというところで置いておきたいと思います。

他の七つの駅は、このキーワードを結構実現させてきています。全く実現できなかったのは黒部宇奈月温泉駅だけ、「見えない駅・魅せる駅」という、全くよく見えるわけですね。あとは、ああ、何かすごいなという、糸魚川は破碎帯のひびがいっぱい出てきてしまって、これ勇気が要るなと思ったりしておりますが。

では8ページ。これはどっちかというイメージに近い話ですが、先ほどの眺望の点では一応こういうデータが出たということがあって、これは非常に重要だと思います。あと駅周辺の賑わいとして、加賀市総合新病院が来たという、これはバスの路線を含め、この駅周辺に人が集まる、賑わいをつくる重要な仕掛けになると思っています。

次9ページ。このピンクのゾーンの駐車場がなくなってしまうということと。それから、乗降客のデータが少し違いますよという話がある。それから、新しい駐車場の台数を算出する台数の問題。これについてはもう一度ご検討願いたいと思います。

10ページにおいては、ほとんど赤い枠が何ができるかという話になってしまいます。あとは高架化の下をどう利用するかという話ですね。駅舎として。この10ページの高架下について言うと、だいたい色っぽい高架下空間の活用という、この部分が比較的自由度があって、この委員会で検討できるという範囲だということですね。

(四十九オブザーバー) ここをお貸しすることは可能です。

(水野委員長) 可能ですか？

(四十九オブザーバー) はい。例えば新高岡駅は市さんにお貸しして、あそこのいろいろな。

(水野委員長) 物産と観光と。

(四十九オブザーバー) あと、もう一つコンビニみたいなものをやっているのですが。

(水野委員長) ええ、コンビニが入っています。

(四十九オブザーバー) 逆に、あれはわれわれは土地を行政さんにお貸しして、その行政さんからまた一部われわれのグループ会社が借りているとか、いろいろな方法はあると思います。直接われわれがやる場合もありますが、大体そういうところは金沢とか、富山とか、そういうところですが、なかなかこのような駅ではわれわれは直接は多分困難なのかなという気はします。

だから、われわれが土地をお貸しして、建物は都市側さんに造っていただくとか、それはいろいろな方法があると思います。

(水野委員長) あと一つだけ確認ですが、在来線は絶対いじらないと。例えば連立みたいに持ち上げてしまうとか。

(四十九オブザーバー) 今、われわれにおいてはそんなことはないですね。

(水野委員長) ないですね。

(四十九オブザーバー) はい。

(水野委員長) 地元自治体が動かないとないわけですけどもね。

(四十九オブザーバー) はい。

(水野委員長) それは加賀市さんの方はいかがですか。

(事務局) 今のところ。

(水野委員長) 小松も金沢も富山も。富山は、今やっていますね。連立すると新幹線とのつながりがものすごく良くなって、駅の反対側とのつながりも非常に良くなるのですが、それは今のところ。

(事務局) 小松、金沢は、踏切解消という駅前後の大きな課題の解消ということで連立を行ったと。加賀市の場合は前後全部アンダーパスになっていまして、連立の事業をやるというのは、新幹線の駅の通過のためだけに、南北の通過のためだけに上げるというのは今のところ考えないと思います。

(水野委員長) 少し断面図で言うと、かなり難しい在来線と新幹線の連絡です。これも前提です。そうしますと、われわれがこの委員会で考えて結論を出すことは、この高架下の黄色い所ということになってしまっているのですね。そのことについていろいろと議論を重ねてまいります。

(B) 並行在来線に関しては、ホームとか、駅舎とか、今のまま放っておくというか、基本的にはそのままという考え方ですか。

(四十九オブザーバー) 原則そうですね。

(B) そうなのですか。例えば観光の拠点として、ここを玄関口にするのであれば、い

ろいろとお話が出ていますように、例えば大聖寺方面に移動する、動橋方面に移動する、そのときはやはり観光客の方は使われるわけですね。そういう人たちに対して、では今のみずぼらしい在来線で、ホームを使っていて、あの汚らしい待合室とか、決して美しいとはいえないので、そのまま放っておくのかという話なのですが、やはり観光客を大事にするのであれば、その辺もリニューアルすべきかなと思います。かき上げしないにしても、ある程度の品質を確保した方がいいのかなと思います。

(四十九オブザーバー) 当然通常の維持管理のための工事はやっています。ただ、今、ではそれを例えば連立みたいに上げるとか、そういうことは今のところは考えていません。一応バリアフリー機能も加賀温泉駅は付いておりますので、今のところは。

(E) 付いていたかな。

(四十九オブザーバー) エレベーターが一応。今、言われた待合室は、多分新幹線工事に当たるので、それは当然いろいろな意味で、多分工事中は駅舎も仮移転等々でやらないと工事ができないので、その辺は機構さんとお話ししてやっていくのかなとは思っています。

(B) 特に冬場は雨風が非常に激しいので、在来線といえどもやはり雨、風よけのスペースなども充実させておいた方がお客さまにとっては、もちろん地元客にとってもありがたいことかなと思うのですが。

(事務局) 今の並行在来線の方をさらに良くするというのは、今度、IR いしかわが引き継ぐことになりますので、JR さんが直接やるということなくなって、今度は自治体側といえますか、そちらで議論していくというように引き継がれることになると思います。

(B) 両方できるのかどうか。財源がないからそれはできないとか。

(水野委員長) ちょっと時間が迫ってまいりましたので、先に行かせていただいて、11 ページの右の方、加賀温泉駅周辺整備の方向性として、(1) 加賀市の新しい顔としての都市空間の創出、(2) として、広域的な交通結節点としての交通機能の強化、(3) 駅南北の連絡機能の改善による南北連携の強化、(4) として、交流の玄関口として相応しい景観形成という、非常に大きな方向性が出ておりますが、先ほどの 10 ページのこの範囲でやれということとはほとんど不可能です。

それが 13 ページに一つの現況平面図が出ています。これは最低限必要なことで、これで先ほどの 4 項目ができるかというとなかなか難しいですね。これは現況ですが、これですさらに交通拠点としての路線バスがなくなってしまいます。それから、ガレリアがなくなってしまいます。タクシー乗降場もなくなってしまいます。

(事務局) これはちょっと表示が漏れているところがあるのですが、新幹線の整備区域

はこの黒い破線の部分です。赤くハッチしてあるのは、駅舎工事のために仮にいじる部分ですので、最終的には黒い線までまた戻るということですので、原状復旧が取りあえず原則なのですが、それをどのように次に活かしていくかということになると思います。

(水野委員長) はい。そうすると、路線バスは、昔と同じ範囲でしか残らないという感じですね。

(事務局) そうです、はい。

(水野委員長) タクシーの所も。そうすると、いかがでしょうか。これを含めてですが、その前の例えば 11 ページに書いてあることはどういうことなのかということになるわけですね。

(事務局) 例えばこの関係性が書いてあります。

(水野委員長) そのことも含めて、次の会にもう一遍やりたいと思います。要するにこの範囲でやるという、これはわれわれの宿題なのですが、その範囲以外に対して少し全体の方向を提言しないと、これは何のためにやっているかという、駄目でないかと思っております。それが実現するかどうかは、この委員会からの発言ですから分かりませんが、一つの大事な拠点になってほしいということは変わりないでしょうから、そういう意味で今後の市のまちづくりの方向もそういう方向で照準を合わせてほしいなという、そんな要望がこの委員会から出てきてもいいのではないかという気がします。そうしないと、これは駐車場だけでも解決していない。観光バスとか、公共交通機関の拠点としても機能していない。ましてや市民広場とかガーデンシティなども応えていない、歴史・文化にもなっていない、そうなりかねない。

その辺も含めてあと 2 回議論する場がありますので、みんなで知恵を出していきたいと思っております。今日のところは結論が出ないのですが、悩みながら終わりたいと思っております。

最後、何かございましたらどうぞ。事務局の方から何かございますか。

(4) その他

(事務局) 次回また日程の方はこちらの方で調整して連絡します。今、駅周辺の、今の区域だけでなく、もう少し広げてみる、先生のお話がありましたが、こちら側としましても、駐車場が足りないということは十分認識しておりますので、ただ、その辺、市の方でできる幾つかの案をまた次回以降提示できるようにしたいと思いますので、施設の話等も含めて提示したいと思いますので、またよろしくお願ひします。

(水野委員長) 先ほどの高山先生がおっしゃったように、隣の商業施設に頼んで時計台駐車場を造ってもらおうとかね、持ちつ持たれつ。

3. 閉会

(水野委員長) では、これで今日の会議、ちょうど今 12 時になりましたので、終わりたいと思います。ありがとうございました。

(一同) ありがとうございました。